

PET-CTがん検診

Positron Emission Tomography Computed Tomography

PET-CT検査は、さらに一步進んだ
がんの画像診断法です。

ご案内



北見赤十字病院

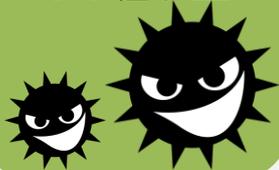
思いがけない「がん」の発見

PET-CT で、見つけられる「がん」の種類が増える。

「がん」とひと口にいても、発生する場所によって、胃がん、大腸がんなどの名前がつき、50種類以上もあります。一般にがんと呼んでいるのは、上皮細胞といわれる場所に発生するものです。その他、造血器にできる白血病や、悪性リンパ腫、骨髄腫、そして骨や筋肉や脂肪にできる肉腫などもがんの一種です。

日本人の
2人に1人は
がんになる

がんの種類は
50種類以上

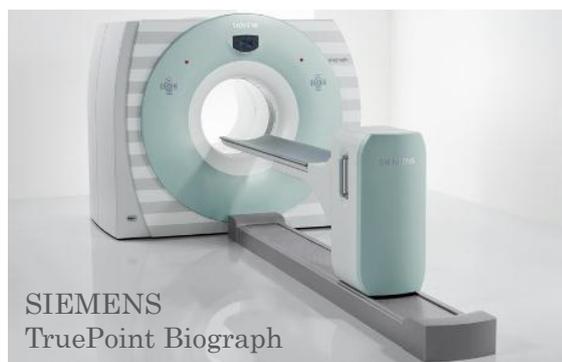


がんがなぜ人間の体に有害なのでしょう。それは、どんどん増殖して、人間の体を維持するための細胞がきちんと働かないようにするからです。他の正常細胞の栄養を先に吸収したり、周囲にしみ出たり（浸潤）、体のあちこちに転移して、勢力を拡大していくのもがんの特徴です。

胃がんや肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がんなどには、すでに多くの検診が行われており、早期発見に役立っています。しかし、がんは体のあらゆるところにある可能性があり、従来の検診ではそれらのうち一部の種類のがんしか発見できません。

PET-CT 検査は、苦痛がほとんどなく、一度の撮影でほぼ全身のがんを調べることができる検査として、近年注目されています。

症状のない方が「がん」を早い段階で発見できれば、効果的な治療を行うことができ、根治（完治）の可能性が高くなります。また、早期に治療を行うことで転移の心配も少なく、治療法も、身体への負担が少ないものから選択することもできます。症状が出てから進行したがんを発見するのに比べ、生活の質を確保することができます。



PET-CT 検査とは？

優れた画像診断 PET-CT 検査

一度の検査でほぼ全身撮影

早期発見が難しかったがんや、予期せぬところにできたがんの発見が期待できます。

苦痛の少ない検査

痛みや苦痛はほとんどありません。薬剤（FDG）を注射し、装置の中で30分程度横になって撮影します

PETとCTを一体化 高精度な画像診断

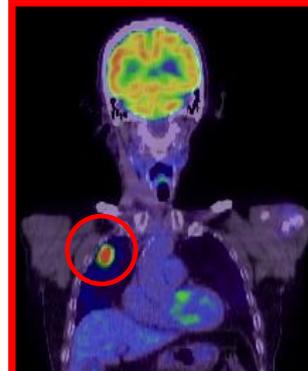
時間差による画像のずれを防ぎ、高精度な位置合わせが可能。そのため、PETだけの検査よりも高精度です。



PET画像



CT画像



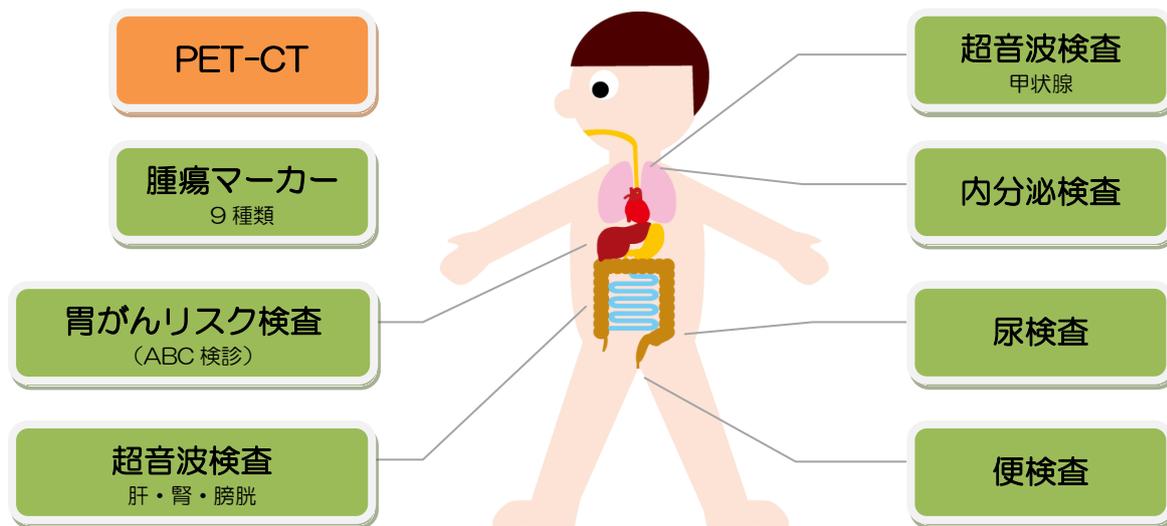
PET-CT
重ね合わせ画像

複数の検査を併用する「がん検診」

PET-CT がん検診の検査項目

がんは知らないうちに体の中で密かに増殖を続けていきます。がんができていく部位、あるいはがん組織の成分や性質によっては、PET-CT 検査でも発見しにくいものがあります。その弱点を補うために、最新鋭の PET-CT 検査に加え、下記の検査を行い「がんの早期発見」に努めています。

 の検査は、PET-CT 検査では見えないがん・見えにくいがんの発見を補うために行います。



*PET-CT 検査後に肺ヘリカル CT を実施し、PET-CT 検査では見えにくい肺がんの発見にも力を入れています。

料金

バリューパック

105,000 円 (税込み 113,400 円)

所要時間：約6時間

PET CT	腫瘍 マーカー	胃がん リスク	超音波 腹部	超音波 甲状腺	内分泌	尿	便
-----------	------------	------------	-----------	------------	-----	---	---

* 検査結果は2週間程度でお送りいたします。

ご予約・お問合せは **北見赤十字病院 健康管理センター**

〒090-8666 北見市北6条東2丁目1番地

直通電話 **TEL.0157-33-3200**

[お問い合わせ時間] 音声ガイダンスにしたがって番号を選択してください (土日、祝祭日、5/1、12/29~1/3 除く)

平日 **9:00~16:00**

- 新規のご予約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・〔1〕
- 日程の変更・キャンセル・オプションのお申込み・・・・・・・・〔2〕
- 契約・見積り・その他のお問合わせ・・・・・・・・・・・・・・・・〔3〕

平日 **13:30~16:00**

- 二次検査のご予約・お問合わせ・・・・・・・・・・・・・・・・〔4〕
- 保健指導のご予約・お問合わせ・・・・・・・・・・・・・・・・〔5〕

PET-CT がん検診の目的

この検診は、症状がない方を対象に画像検査を主検査とする一連の検査により、自覚症状のないがんを発見し、早期のうちに身体に負担を与えない治療をすることにより、生活の質の確保と死亡率の減少を目的としています。特定のがんを調べるものではありません。

PET-CT がん検診の対象とならない方

- ◆妊娠中または妊娠の可能性のある方
- ◆授乳中の方
- ◆がんの診断を受け治療中の方（主治医にご相談ください）
- ◆約 30 分の撮影中に動いてしまう方。（遠隔での指示に従えない方）
- ◆狭い所が特に苦手な方（閉所恐怖症など）

安全性と危険性

- ◆薬剤（FDG）・撮影による放射線被ばくがありますが、1回の検査における被曝量は 10mSv 程度です。これは通常の CT 検査と同等で、この被ばくによる放射線障害はありません。
- ◆薬剤（FDG）の注射時に、気分不快・血圧低下・神経障害がごく稀に起こることがあります。

診断精度の限界

- ◆心臓・腎臓・膀胱には生理的に薬剤（FDG）が多く集まるので、これらの臓器やその周囲は、がんか生理的なものかの判断が困難となります。
- ◆薬剤（FDG）は、がんなどの悪性腫瘍以外にも、炎症や良性腫瘍・手術痕などにも集積することがあります。
- ◆1 cm 以下のがんや糖の取込みの少ないがんの診断は困難な場合があります。

発見しにくいがん

膀胱・尿管のがん、腎臓がん、肝細胞がん、胃がん、前立腺がん、表在がん（食道・胃・大腸・子宮頸部など）、1 cm 以下のがん など

※表在がん
がんの浸潤が粘膜下層までにとどまるものでリンパ節転移のないもの など

検査をする際の注意事項

- ◆使用する薬剤（FDG）は動かした筋肉に取り込まれます。検査前日から検査終了までは運動などはできません。
- ◆検査の 6 時間前から絶食となります。
- ◆糖尿病で薬物治療をしている方は、絶食開始から検査終了までは服薬・インシュリンの使用ができません。
- ◆やむを得ず検査の途中で中止した場合でも、料金の払戻しはありません。再検査等で調整を行います。

検診内容は予告なく変更になる場合がございます。